

おしらせ

本年6月中旬 池袋→江戸川橋（地下鉄・有楽町線）

業務の効率化をめざし、事務所を移転します

平成4年に発足した下水道機構にとって、今年には15周年を迎える節目の年です。そこで、私どもでは本年を「新たな旅立ちと次のステップへの発展の年」と位置づけ、その一環としてオフィスの移転を行うことにいたしました。既に報道等でご存じの方も多いかと思いますが、15年間慣れ親しんだ「池袋」から、6月中旬に地下鉄有楽町線の「江戸川橋」に移転する予定です。

15年間お世話になった池袋は、1日の乗降客数260万人と、新宿駅に次ぐ多さを誇る一大商業地域です。当初、ここに機構が居を構えるということになった時には、多くの関係者が「あの歓楽街に・・・」と、驚きの色を隠せなかったそうです。しかしながら、混沌としたこの街は、産声をあげた新しい命を包み込んで大きく育ててくれました。

機構の裏手には、有名なラーメン屋さんからインド料理、老舗の鰻屋などが軒を連ね、仕事が終わってからの職員同士の懇親にも場所を選ばずといった風情です。地方から出張してくる方々にも霞が関や赤坂、虎ノ門とはまた一味違った“東京”を感じられる訪問先として人気も高く、「池袋の財団」という名ですぐに話が通ったと聞いています。



ロサ会館 機構の裏手にある池袋西口の顔ともいえる建物です。映画館をはじめ、ポーリング場や居酒屋、ゲームセンターなどが揃う一大アミューズメント施設です

オフィスの目と鼻の先には、55年の歴史を持つ落語の殿堂「池袋演芸場」や40年以上も続く映画館「ロサ会館」、クラシックコンサートで有名な「東京芸術劇場」などがあり、研究開発とはまた少し違った意味での“勉強”の場として懐かしく思われる方々も数多くいらっしゃるのではないのでしょうか。こうした諸先輩方の思い出の詰まった池袋西口には後ろ髪を引かれる思いもありますが、意を決して巣立つことにしたのです。

「江戸川橋」は、池袋から三つ目、東京駅の隣の有楽町駅からは六つ目の駅になります。有楽町からの所要時間は12分ほどです。途中の「桜田門」は国土交通省、「永田町」は議員会館や都道府県会館、「麹町」は都市センター、「市ヶ谷」は日本水道会館と、途中には種々の「立ち寄りどころ」があり、動線で考えるとなかなか便利なところですよ。

江戸川橋の4番出口から地上に出ると、目の前は「新目白通り」です。新オフィスは、それを右手の方向（飯田橋方面）へ歩いて1分ほどのところですよ。また、地下鉄東西線の神楽坂駅からは6～7分で歩けます。地方から新幹線でおいでの方は、東京駅の日本橋出口のすぐ下（日本下水道協会方向）に東西線の大手町駅がありますので、そこから神楽坂まで8分というルートの方が便利かもしれません。

今回の移転は、現在の池袋のオフィスが手狭になったことが大きな理由です。ご案内の通り、機構の特徴は「客観性」および「公平性」を持った評価・判断にありますので、委員会には学識経験者の方々に入ってください機会が多くなります。ただ、近年はその委員会の開催が年間100回を超えるようになり、時に会議室の確保に頭を悩ませることもありました。新オフィスは、池袋の1.5倍のスペースとなるため、今まで場所や日程等でご迷惑をかけていた点がかなり解消されると思います。

新オフィスの目の前には、新目白通りを挟んで、神田川が流れています。すぐ上流には、江戸から明治初めにかけて貴重な水供給源であった「神田上水」の「大洗堰跡」があります。この堰で取水して、神田や日本橋などへ導水していました。「水道町」の地名もここからきているようです。付近には歴史的建造物も多く、堰の守護神が祀られている「水神社」や俳諧師になる前の芭蕉が住んでいたとされる「関口芭蕉庵」などがあります。

また、新オフィスのすぐ裏には、古き良き時代の下町の雰囲気を残す「地蔵通り商店街」があります。著名なたいやき屋さんや手焼きの煎餅屋さんもあり、懐かしい思いにとらわれます。一方、神田川の向う岸



神田川 30年以上前、かぐや姫が「神田川」をヒットさせた頃に比べ、水は格段にきれいになりました。桜の時期は川にしだれかかるようにソメイヨシノが咲き誇ります

は、かつて武家屋敷が並んでいた高級住宅地であり、「鳩山会館」として公開されている元内閣総理大臣鳩山一郎氏の私邸があります。

このように、江戸川橋周辺は、山の手と下町の境目にあり、文化の薫りの漂う、そして何よりも「水」に縁のある素晴らしい街です。新オフィスは、訪れた方々が一息つける「ラウンジスペース」を設けたり、機能の充実した会議室を設置したりと、設備面でのレベルアップを図る予定です。下水道機構が名実ともに下水道界の「情報交換の場・サロン」になればと考えていますので、多くの方々のご来訪を心よりお待ちしております。



関口芭蕉庵 江戸時代を代表する俳人・松尾芭蕉が、旧主筋の藤堂家が行っていた神田上水の改修工事に携わり、3年ほどこの地に住んでいたと伝えられています



東京メトロ 有楽町線「江戸川橋駅」
東京メトロ 東西線「神楽坂駅」までの
アクセスマップ

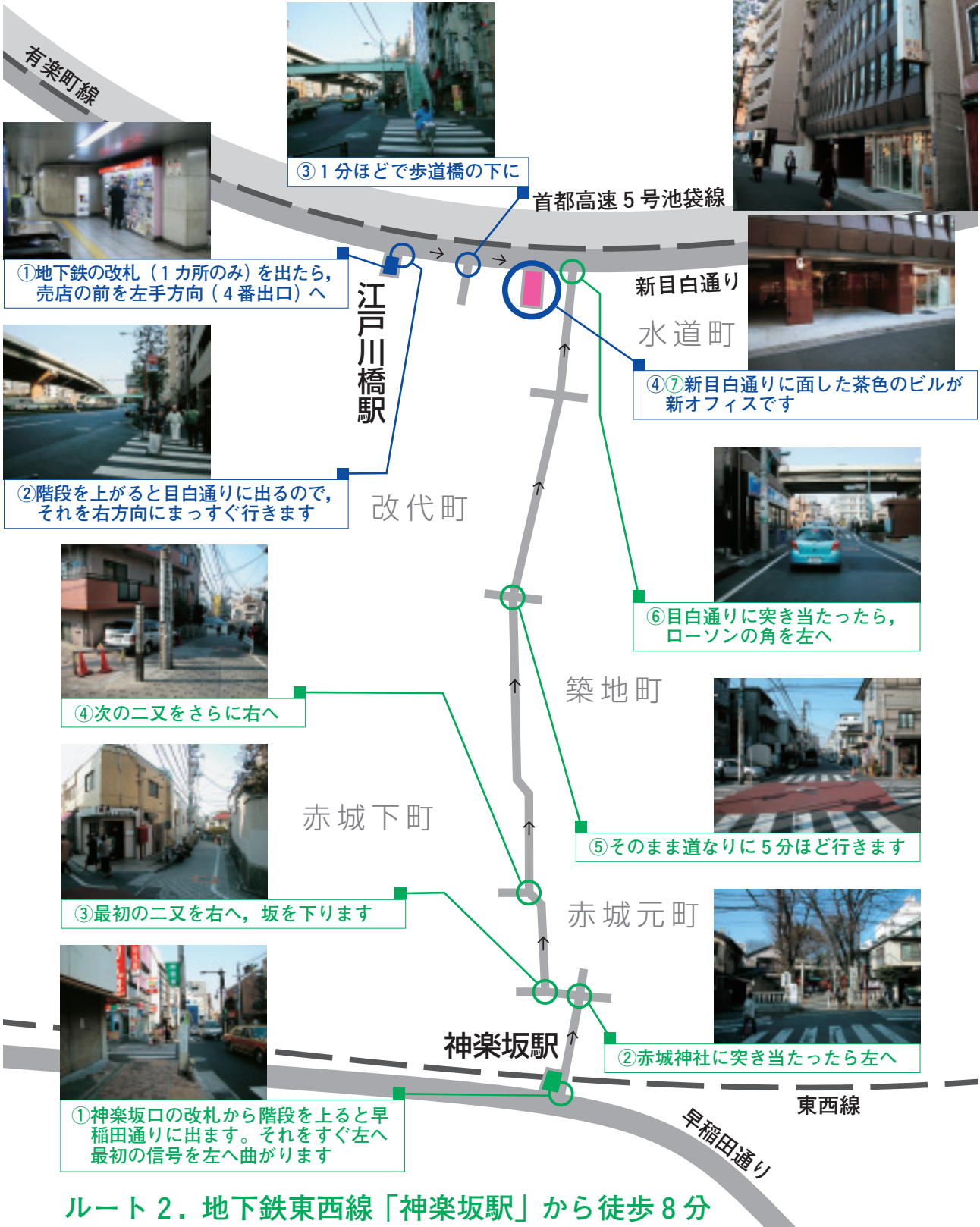
新オフィスの住所

〒162-0811

東京都新宿区水道町 3 番 1 号
水道町ビル 7 階

下水道機構 新オフィス ルートマップ

ルート1. 地下鉄有楽町線「江戸川橋駅」から徒歩2分



ルート2. 地下鉄東西線「神楽坂駅」から徒歩8分